

[HP掲載内容]

## 平成20年度第3回宮崎県社会教育委員会議 要旨

1 開催日時：平成20年11月19日（火）13時30分から16時00分まで

2 会 場：県庁会議室

3 出席者：委員15名（欠席2名）

### 4 概 要

(1) 開会行事

(2) 説 明

- 提言の取りまとめに向けての今後の方向性について  
(レジュメに沿って事務局が説明)

(3) 分科会

(家庭の教育力向上部会)

協議題「食育指導を通じた家庭教育の充実について」

- 今回の提言案1について、各委員から出された原稿の内容は、食育に偏っているが、本来、この分科会は、親子の絆、家庭教育力の向上があくまでも中心であるので、再度修正が必要ではないか。
- 食育については、県は平成17年度から取り組んでいる。しかし、県が推進している食育と本分科会が進めている食育の捉え方は違っている。また、県下への広がりが課題なので、そこを社会教育として捉え、どう働きかけないといけないかを整理しないとイケない。
- 本分科会では、食を抜く弊害による生徒指導上の問題等を意識して協議している。
- 再度、柱を見直すことも必要ではないか。食育を中心地として、①地域で取り組むこと、②家庭で取り組むこと、③まとめ にしたらどうか。
- 提言のとりまとめについて、自主的な研修を11月22日午前中に開催しよう。

○ 社会教育委員の任務 出て行く 横のつながり

報告 → 提言

17日 1時30分

(地域の教育力向上部会)

協議題「地域住民主体の活動拠点づくりについて」

- 活動拠点づくりの視点があまり議論されないまま に進んでしまっている。

なぜ必要かを踏まえ、中身の議論に入っていきたい。

- モデル的なものも新たな視点としてはどうか。
- 学校の空き教室を利用した公民館活動はどうか。
- 各地域で活動している団体がネットワーク化するのは、誰を中心にするのか、目に見える形でネットワーク組織を作ろう。
- どのような取組でも長く続けるためには、コーディネーターが目的を理解し人材を集め、育成することが大切である。
- 踏み込んだ提言をすると提言が生きてくるのではないか。
- 地域の人が先生になる場づくりをしていく。
- 柱としては、
  - ① 地域住民の参画による活動拠点づくり。
  - ② 子どもの体験活動、高齢者とのふれあい活動の推進
  - ③ コーディネーターの養成
  - ④ 学校・家庭・地域のネットワークづくりのようにはどうか。そしてその柱の本文の中に、具体例（先進事例）を入れていけば分かりやすいものになるのではないか。

#### (4) 全体会

- 各分科会報告
- まとめ
  - ・ 提言をまとめるために、端的に、分かりやすく、具体的な事例を入れていく方向でどうだろうか。それを県教育委員会や市町村に向けて提言していくことにしたい。
  - ・ 一人一人が、地域にどう参画するかが大切である。
  - ・ 社会の変化を見据えた上で、家庭・地域の在り方をまとめていくべきである。